

# 神奈川県立産業技術短期大学校スキルアップセミナーの実施支援 「若手・中堅社員に向けた生産管理の手法」セミナー

## はじめに

神奈川県立産業技術短期大学校スキルアップセミナーである「若手・中堅社員に向けた生産管理の手法」が2023年10月24日、25日の2日間で行われ、県内企業から11名(うち女性2名)の参加者がありました。

この度のセミナーのねらいは、座学だけでは、身につけにくい生産管理の手法について、製造現場を想定したグループワークなどを通じて学ぶことです。作業計画の進め方や職場の問題点の把握と解決、改善の進め方などのポイントを学び、現場力を向上させることにつなげることです。

## 1 研修の進行について

紙飛行機による模擬生産演習を決められた時間内に、決められた寸法で、決められた数量を製造します。模擬生産作業では、どのような手順で、どのように行えば良いかを、リーダーを中心に、グループ全員で取り組みます。そして、この取り組みの中で、生産管理に関するいろいろなことを学んでいきます。

この紙飛行機づくりの取り組みを通して、実際の工場などで行われるものづくりについて、良い品質の製品を速く、楽に作るためには、どのようなことを考え、どのようにすれば良いかをグループで考えます。

## 2 研修の具体的目標について

- その1 ものづくりの基本を学ぶ
- その2 自律的問題解決能力を向上させる
- その3 リーダーの役割とチームワークを養う

### その1 ～ものづくりの基本を学ぶ～

ものづくりの基本は、よい品質(Quality)のものを、数量や納期(Delivery)を守って、なるべく安い価格(Cost)で作ることです。(ものづくりのQDC)

そのために、製造の基本的要素である人(Man)、材料(Material)、設備(Machine)を用いて、どのような方法(Method)で生産すればよいかを考える必要があります。(生産の4M)そして、この4Mをうまく組み合わせて、「安全に」、「楽に」、「安く」、さらに「早く」製作するには、どのような体制で作ればよいかを考えた、生産をすることが求められます。

### その2 ～自律的問題解決能力を向上させる～

ものづくり現場では、日々いろいろな問題が発生します。

このような問題を、ただ単に、トラブル処理するのではなく、これを「改善のチャンス」

と捉えます。

なぜ問題が発生したのか、その真因を追求して再発防止につなげていく考え方や方法を学びます。そして、一人ひとりが主体的に問題解決を行う能力の向上につなげていきます。問題点を発見するために、「なぜ」を5回反復する方法が良く使われます。これは、問題の発見と解決を考えるには、問題の顕在化(見える化)、対策、処置などを理解して進めることです。(問題解決のPDCA サイクル)

### その3 ～リーダーの役割とチームワークを養う～

紙飛行機の模擬生産演習を通して、リーダーが果たすべき役割や行動、取り組み姿勢などについて学びます。また、チームワークの大切さなどについても学びます。

模擬演習では、リーダーとしての指示・統率する立場と作業者の立場の両面を体験し、生産指示をどのように行い、リーダーとメンバーのチームワークでどう生産するか？ また、問題点をどのように顕在化し、その問題をどのように改善するかなどを行う中で、チームワークの大切さなどについても学びます。

## 3 研修結果について

研修では、グループ A とグループ B の 2 グループで実施されました。両グループとも話し合いで、グループリーダーを決め、生産計画書に従って役割分担を決めました。

生産は、第一次生産と第二次生産の 2 回実施しましたが、第一次生産終了後、ただちに問題点の洗い出しをグループ全員で行い、第二次生産への改善の取り組みを行っております。

生産結果は、グループ A、グループ B とも生産目標数には達しませんでした。両グループとも第一次生産の改善策についての積極的な話し合いにより、生産性を大幅に改善することができました。

この結果は、受講生の皆さんが、グループ討議の中で積極的に意見を出し合い問題解決や業務改善に熱心に取り組んだ成果であり、参加型研修の効果が十分に発揮されたと感じました。

## 4 受講生所感

グループA; 第一次生産の結果では、不合格率がわずかに達成できなかったが、それ以外の目標を達成し概ね満足できる結果であった。これも第一次生産を全員で結果分析し、工程の平準化、やりにくい作業の治具化、各作業のムダを徹底的に改善した結果と言える。

反省点としては第一次生産で発生した外観不良の問題が十分対策されないで第二次生産を行ったことである。十分な要因分析が必要であると痛感した。チームワークの大切さを学ぶことができ、今後は今回の経験を自社の改善活動に活かしていきたい。

グループB; 生産目標数 50 機には達しなかったが、治具などを工夫して第一次生産に

比べると不合格数は大幅に減った。しかし、不合格数に目が行き時間管理が後回しになった。チーム内で誰一人時間を管理しなかったのが、実際の仕事面ではしっかり管理するようになりたい。

リーダーとして全体を把握し、各工程の問題点をあげ、皆で意見を出し合い改善できたことでチームとして成長できたと感じた。各工程で不良が出たら全体に知らせて状況を知ることの大切さを学んだ。

